

岡 病 防 第 15 号
令和 7 年 9 月 29 日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第 7 号を下記のとおり発表したので送付します。

令和 7 年度病虫害発生予報第 7 号

令和 7 年 9 月 29 日
岡 山 県

予報概評

作 物 名	病 害 虫 名	発 生 時 期	発 生 量
水 稻	トビイロウンカ	—	やや少
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	並
果 樹	カメムシ類	—	並
キュウリ	褐斑病	—	並
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病 ハクサイべと病 軟腐病 黒腐病 コナガ ヨトウガ アブラムシ類 モザイク病 ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	— — — 並 — — — — — — —	並 並 やや多 やや多 並 並 並 並 並 並 並
キ ク	ナミハダニ オオタバコガ	— —	やや多 並

1. 普通作物

(水 稲)

(1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月18、19日の巡回調査（中南部地帯）における発生ほ場率は0%で平年（20.3%）より低かった。

イ. 赤磐市の予察灯における9月1半旬～4半旬の誘殺数は、0頭で平年（19.3頭）より少なかった。

ウ. 9月25日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並からやや多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(ダイズ)

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2,473頭で平年（2505.6頭）並であった。

イ. 9月4、5日の巡回調査における白化葉（被害葉）の発生ほ場率は13.3%で平年（19.9%）よりやや低かった。

ウ. 9月25日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並からやや多いとされており、発生をやや助長する条件である。

2. 果 樹（全般）

(1) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～4半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシは83頭（平年61.7頭）、クサギカメムシは10頭（平年7.5頭）と平年並、ツヤアオカメムシは5頭（平年48.4頭）と平年より少なかった。

防除上の参考事項

ア. 9月下旬以降主要種はツヤアオカメムシである。

3. 野 菜

(キュウリ)

(1) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月17日の巡回調査によると発生ほ場率は60.0%で、平年（89.3%、過去10年のうち7年間は100%）よりやや低かった。

イ. 9月25日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並からやや多いとされており、降水量が多い場合発病を助長する条件となる。

(キュウリ、ナス)

(1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月16、17日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月25日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並からやや多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) ハクサイ白斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月16、17日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(22.0%)より低かった。

イ. 9月25日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並からやや多いとされており、降水量が多い場合発病を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

(2) ハクサイべと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月16、17日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(9.6%、過去10年のうち9年間は0%)並であった。

イ. 9月25日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並からやや多いとされており、降水量が多い場合発病をやや助長する条件となる。

(3) 軟腐病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月16、17日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、発病ほ場率は平年(21.0%)より低かった。ハクサイでは発生を認めず、発生ほ場率は平年(2.3%、過去10年のうち9年間は0%)並であった。

イ. 9月25日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並からやや多いとされており、発病を助長する条件である。

(4) 黒腐病

予報内容

発生時期 並

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月16、17日の巡回調査によるとキャベツでは発生を認めず、発生ほ場率は平年(3.3%、過去10年のうち9年間は0%)並、ハクサイでは平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月25日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並

からやや多いとされており、降水量が多い場合発病を助長する条件となる。

(5) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける 9 月 1 ～ 4 半旬の誘殺数は 5 頭で、
平年 (1.9 頭) 並であった。

イ. 9 月 16、17 日の巡回調査によるとダイコンでは発生ほ場率が 16.7% で平
年 (61.4%) より低く、キャベツでは 0 % で平年 (6.0%) 並、ハクサイで
は 0 % で平年 (1.0%) 並であった。

ウ. 9 月 25 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並
からやや多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(6) ヨトウガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9 月 16、17 日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9 月 25 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並
からやや多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量	アブラムシ類	並
	モザイク病	並

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における 9 月 1 ～ 4 半旬の飛来数は 304 頭で平年
(1200.6 頭) より少なかった。

イ. 9 月 16、17 日の巡回調査によると、ダイコンでは発生ほ場率が 0 % で平
年 (7.4%) よりやや低く、キャベツでは 33.3% で平年 (0%) よりやや高
く、ハクサイでは 0 % で平年 (0 %) 並であった。

モザイク病は、ダイコンでは発生ほ場率 16.7% で、平年 (18.7%) 並で、
ハクサイでは発生を認めず、発生ほ場率は平年 (0.9%) 並であった。

ウ. 9 月 25 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並
からやや多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(8) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける 9 月 1 ～ 4 半旬の誘殺数は 2,473 頭
で平年 (2505.6 頭) 並であった。

イ. 9 月 16、17 日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9 月 25 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並
からやや多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(9) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月16、17日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

イ. 9月25日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並からやや多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(10) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2頭で、平年(2.3頭)並であった。

イ. 9月16、17日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月25日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並からやや多いとされており、発生をやや助長する条件である。

4. 花 き

(キ ク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 9月16、17日の巡回調査によると発生ほ場率は25.0%で、平年(11.3%)よりやや高かった。

イ. 9月25日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並からやや多いとされており、発生をやや助長する条件である。

(2) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2頭で、平年(2.3頭)並であった。

イ. 9月16、17日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月25日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並からやや多いとされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

